

学群・学類・研究科・学系

EDUCATIONAL AND RESEARCH SYSTEMS

学群・学類(教育組織 Educational Systems)



福島大学では、教育組織と研究組織を分離した「学群・学類・学系制」を導入し、教育や研究における教員の相互交流を推進している。人文社会学群に「人間発達文化学類(旧教育学部)」「行政政策学類(旧行政社会学部)」「経済経営学類(旧経済学部)」の3学類を、理工学群に「共生システム理工学類」を、農学群に「食農学類」を置いている。人文社会学群には社会人教育を担う「行政政策学類夜間主」を設置している。

人文社会学群 Cluster of Human and Social Sciences

人間発達文化学類 Faculty of Human Development and Culture

生涯を通じた学びや人の成長を支える人材を育成

人間発達文化学類では、生涯にわたる人間の発達を個人・社会・文化との関わりにおいて支援していく人材の養成を目指しており、学校教員をはじめとして、社会の様々な分野で活躍する教育関係者、人間発達の支援者を育てる。学生は、自らの興味・関心や目指す進路に応じて、1年次から専門のコースに所属し、各コースの用意するプログラムを選択して学ぶ。この学びにより、専門に関する確かな知識・技術と実践的な応用力を身につけることができる。各種免許・資格等のうち、保育士・幼稚園教員は心理学・幼児教育コースで、特別支援学校教員は特別支援・生活科学コースで、小学校・中学校・高等学校教員は全コースで養成している。

教育実践コース	学校現場で子どもの学びを支え、確実な成長を助ける学校教員として求められる実践力をつけることを目指す
心理学・幼児教育コース	人の行動・心理についての知識を得て、科学的手法により研究を行う心理学と、乳幼児の発達を学び、幼児期にふさわしい経験を探る幼児教育について学ぶ
特別支援・生活科学コース	知的障害・肢体不自由・病弱などサポートを必要とする子どもたちの発達支援や家庭・地域社会に関わる生活科学の基礎について学ぶ
芸術・表現コース	芸術の意義を理解し、音楽や美術に関わる力量を理論的、実践的に身につけるための学びを行う
人文科学コース	言語や文学、地域や社会のあり方、その歴史や思想など、文化について広く深く学び、地域の文化を継承し、発展させていく力を養う
数理自然科学コース	身近な自然や先端的課題の中から数学や自然科学に関わる諸問題を見いだし、それらを探究的に解決する学びを行う
スポーツ健康科学コース	スポーツ技能の向上と指導力を高め、生涯にわたるスポーツライフの実現と健康福祉について学ぶ

TOPICS

福島の教育的課題に取り組む

令和5年9月に福島県教育委員会と国立大学法人福島大学との間で「『福島ならではの教育』と『学びの変革』を推進する教育人材の育成に関する連携協定」を締結した。この協定のもと、福島県内に9校設置されている教育コースに所属する高校生を対象とした以下のようなプログラムを実施している。①模擬授業：教育や教師について大学教員が各高校へ向かい模擬授業を行う。②高校生セミナー：高校生が来学し教育に関する講義の聴講や模擬授業体験を行う。③アドバンストプレイズメント：大学の授業を先取り履修して大学の単位取得を目指す。また福島県教育庁から講師を招き大学生を対象に福島県の教育の現状について講話を実施している。



福島県教育長の講演会の後、教育長と大学生、大学院生による鼎談が行われた

地域や人々の暮らしに、学際的・実践的に貢献する

行政政策学類では、法学、政治学、行政学、社会学、歴史・文化研究等の多彩な科目をそろえ、学際的な観点から地域社会が直面している諸問題を認識するとともに、地域の人々や自治体などのさまざまな主体との協働を通して、実践的な問題解決に取り組む人材を養成する。また東北地方の国立大学文系では唯一の夜間主を設けており、働きながら学び、大学での学修を職業や地域での生活に活かすことのできる人材を育成すると同時に、さまざまな世代の共修による学びの活性化を目指している。国家公務員・地方公務員・NPO職員等の公共部門はもちろん、民間企業にも幅広く人材を輩出している。

地域政策と法コース	法や行政の仕組みを知り、政策づくりから見直しまでの一連のプロセスに取り組む
地域社会と文化コース	地域社会と文化形成にかかわる幅広い知識を修得し、新しい地域づくりを提案し実践をめざす
夜間主(社会人教育)	柔軟なカリキュラムで「学び」と「社会人としてのキャリア」を支える(コースは昼と同様)

TOPICS

地域の課題を調べ、地域とともに楽しむ

本学類では昼間・夜間主とも、2年次進級の際、「地域政策と法コース」「地域社会と文化コース」のいずれかに所属する。いずれのコースでも演習(ゼミ)科目を中心に、一方向的な講義形式とは異なる、学修者の能動的な参加を取り入れたアクティブ・ラーニングが実施される。

例えば「地域社会と文化コース」の場合、「社会計画」「社会学」「地域文化」「比較文化」の4分野に所属する教員が、各分野の特徴を活かして演習を実施する。特に現地調査や実践的な活動への参加を通じて、地域社会を中心とした現代社会の諸課題に直接触れ、考える機会を設けることが、同コースでは日常的に行われている。こうして、自分事として諸課題を捉える感性を養っていく。

その一つ、3・4年次の「演習(社会調査論)」では、人口減少や少子化・高齢化の影響を受ける、計画的住宅地の再生に関する調査や実践を続けている。近年では、いわゆるニュータウンにおいて空洞化する中心施設の活用を考えるための全国規模のアンケート調査や、近隣の現地調査を行っている。また、施設を活性化し、住民の居場所とするための実践的な活動にもとりくんでいる。そうした成果を本学類の学生論集『嶺風』に投稿するなど研究を進めている。

演習科目での調査や実践の経験は、最終的には学生個々がとりくむ卒業研究に活かされていく。そして、職業生活に止まらない、この社会でよりよく生きていくための手立てとしていくのである。



近隣のニュータウンで現地調査や住民の居場所づくりを実施(福島市蓬萊団地)

100年の実績と未来への革新、福大経済

経済経営学類は、旧制福島高等商業学校以来の100年の実績を未来においてより輝かしいものとするべく革新を続けている。現在、本学類では経済学コース、経営学コースの2コースに加え、両コース横断的なグローバル・エキスパート・プログラムを設定し、両コースで学ぶ知識、技能を世界のステージで応用できる人材を育成する。2コースの下には、学生の多様な興味関心と将来の進路に対応すべく、4つの履修モデルを設定している。

経済学コース	現代の経済社会を理解し、経済の理論と応用に関わる専門的知識・能力を修得させる
経営学コース	現代の経済社会を理解し、地域経済と経営、会計と金融の専門的知識・能力を修得させる

TOPICS

グローバル・エキスパート・プログラム

当プログラムは、異なる文化的背景を持つ人々の中で他者に共感しつつ、自らの周りの諸課題を地球規模で考える人材育成を目的とし、欧州評議会が提唱する複言語主義に基づき、日本語、英語とともに、英語以外の外国語の学修を義務づけている。学生は、身につけた外国語運用能力を武器に、留学、海外調査、海外インターンシップなど異文化活動に参加することで、実践経験と知識をバランスよく積み重ね、自らの学修をより深いものにしていく。早ければ2年次後期から1年間の留学が可能である。また、これまでに、テキサス州ヒューストン市役所でのインターンシップ、ヨーロッパやアジアの数カ国で「食」観光「消費行動」に関する共同調査を実施し、その成果を社会に対して積極的に発信してきた。認定基準を満たした学生には、就職活動にも利用できるよう、第6セメスター終了時に認定証を交付している。



「消費行動」に関する共同調査・発表(「ワールドマーケット」於アオウゼ)



学群・学類・研究科・学系

共生システム理工学類 Faculty of Symbiotic Systems Science

システム思考の理工系人材の育成

共生システム理工学類では、現代社会や地域の問題をシステム科学的にとらえ、人・産業・環境が共生する社会を構築するために必要な学問を総合的・実践的に学び、21世紀の社会が抱える諸課題の解決に貢献できる知識・技能と現場応用力を備えた理工系人材を育成する。1年次では幅の広い理工学の基礎を学び、2年次からは4コースに分かれて専門分野を深く学び、3年次後期からは研究室に配属されて演習や卒業研究を行う。なお、共生システム理工学類では、令和7年度のコース再編と同時に定員を40名増員し、入学定員を200名とした。

情報理工学コース	数学やアルゴリズムなどの理論から、プログラミングを含めた情報システム設計・開発スキル、データ分析や問題発見が行える実践力まで、バランスのとれた能力を有した情報人材を育成する。
メカトロニクスコース	物理学・機械工学・電気工学・人間工学・生理学を基盤として、さまざまな分野で役立つ“技術”や“システム”の創出を担う研究者・開発者を育成する。
分子デザイン科学コース	物質・材料関連分野について、化学に関するさまざまな講義や実験を通して体系的に学ぶことで、先進的でクリエイティブな化学系人材を育成する。
環境システムコース	自然災害の予測や防災、環境や生物の保全、持続可能な社会の構築に関して、実践的かつ技術的に対応できる人材や、教育・普及に専門的に携わることのできる人材を育成する。

TOPICS

高度情報専門人材の育成

人材ニーズの増大が著しい「情報のスペシャリスト」を目指す学生を後押しするため、学習内容だけでなく、実習設備など学習環境の充実、就学支援の面も含めて教育プログラムを準備した。

情報系のコア知識の修得に加えて、現実課題に対する視野と実践力を養成するため、理工学類入学後の早い段階から、「大学院での学び」や「大学院修了後の活躍像」などキャリアビジョンの獲得を支援する「実践情報工学プログラム」を実施し、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験などの国家資格を在学中に受験・取得することも可能である。



新たに整備されたコンピューター室

食農学類 Faculty of Food and Agricultural Sciences

食と農をつなげて科学する

「農学専門教育」と「農学実践型教育」の2つの柱からなる農学教育により、実践的に農学を学び、食と農の課題に幅広く取り組みむ力を養う。

食品科学コース	農産物や食品の機能性や高付加価値化に関する技術や知識を学ぶ
農業生産学コース	農産物の安定生産、高品質・高収量化に関する技術と知識を学ぶ
生産環境学コース	持続的な農林業のための環境管理・保全に関する技術と知識を学ぶ
農業経営学コース	魅力的な農業経営、地域やフードシステムに関する知識と技能を学ぶ

TOPICS

農場基礎実習

入学後すぐ1年生から農場基礎実習を開始する。大学の農場で稲、野菜、果樹、花卉を栽培し、作物栽培に必要な技術や管理方法に関する知識を習得する。播種、定植、摘果、肥培管理、病害虫管理、収穫・貯蔵等の基本的な作業を学ぶとともに農業機械や農機具の取り扱いについても学修する。併せて、農場基礎実習では「体験、観察力、コミュニケーション(学生同士、学生と教員、学生と地域の方々)」を養う場でもある。この農場基礎実習を通して農業の基礎を身に付け、2年生以降の現地での実践につなげる。



質量分析装置での実験の様子

田植え実習の様子

森林実習

温室での実習

地域デザイン科学研究科 Graduate School of Regional Design

地域がかかえる21世紀的課題を「デザイン思考」で解決する

地域デザイン科学研究科は、人文科学および社会科学の知を総合して今後の地域社会のあり方をデザインしていくイノベーション人材の養成を目的とする。震災・原発事故からの復興・再生、21世紀的課題の解決、「新しい社会づくり」の理論化・モデル化は、福島のみならず、日本ひいては世界の持続的発展にとって喫緊の課題である。そうした課題に、「住民目線で将来の地域のあるべき姿を描き、課題を整理したうえでその解決方法を具体的に立案・設計・試行する」というデザイン思考で立ち向かう高度専門職業人を養成するために、以下の3つの専攻を置く。

(1) 人間文化専攻

人間文化専攻では、人間社会が歴史的に創り上げてきた文化、人間科学の専門的な探究と他専攻で開講されている各分野の専門科目との学際的な融合を通して、人間の全人的なあり方をデザインし、高度で多様な専門的知識を持ち、地域との協働の中で新しい価値を創造して諸問題の解決を先導できる高度専門職業人を養成する。

言語文化コース	言語学、文学、文化学、言語文化教育
地域文化コース	歴史学、地理学、経済学、社会学、倫理学、食物学、被服学、生活科学教育
スポーツ・芸術文化コース	スポーツ科学、音楽、美術
人間発達心理コース	心理学、幼児教育、臨床心理

(2) 地域政策科学専攻

地域政策科学専攻では、自治やコミュニティのあり方を再デザインし、地域が直面する21世紀的課題を解決に導く力を持つ市民や高度専門職業人を養成することを目的とする。そのために、他専攻の分野も含めた人文・社会科学の諸研究の知見をもとにした複合的な視点を取り入れ、また、歴史的に形成されてきたアイデンティティや、グローバル社会の中での多様性を尊重する姿勢、現場(フィールド)での経験を重視した教育・研究を行う。

法・政策コース	公法、私法、政治・行政
コミュニティ探究コース	社会計画、地域文化、比較文学、社会学

(3) 経済経営専攻

経済経営専攻では、グローバルな視点に立つ経済学、これまでの常識や慣例にとらわれることなく、ほかの専攻と連携しながら、確かな課題意識と豊かな想像力と着実な実践力をもって、地域および世界の21世紀的課題に果敢に挑み社会に改革をもたらす、イノベーション人材を養成する。

経済学コース	経済学、外国語、外国文化
経営学コース	経営学、会計学

共生システム理工学研究科 Graduate School of Symbiotic Systems Science and Technology

理工学の問題解決を通して持続可能な社会の構築に貢献する

学士課程で培われた知識や技術をさらに進化させ、科学技術の進化に適応する高度で広範な教育研究を提供する福島大学大学院共生システム理工学研究科共生システム理工学専攻修士課程を2008(平成20)年度に開設した。年次進行で、2010(平成22)年度からは博士後期課程を開設(修士課程は博士前期課程と改称)し、2019(平成31)年度には共生システム理工学専攻に加えて環境放射能学専攻の修士課程を本研究科に開設している。さらに2021(令和3)年度には環境放射能学専攻博士後期課程を開設(修士課程は博士前期課程と改称)した。

共生システム理工学専攻 博士前期課程	数理・情報システムコース	数学、情報科学、経営システム工学、およびそれらを基礎とする数理・情報システム分野の研究
	物理・メカトロニクスコース	物理学、機械工学、電気電子工学、制御工学、およびそれらを基礎とする物理・メカトロニクス分野の研究
	物質・エネルギー科学コース	化学、材料工学、化学工学、エネルギー工学、およびそれらを基礎とする物質・エネルギー科学分野の研究
共生システム理工学専攻 博士後期課程	生命・環境コース	生物学、心理学、地学、気象学、水文学、およびそれらを基礎とする生命・環境分野の研究
	共生数理システム領域 共生環境システム領域	機械・電子・制御、数理情報・コンピュータ科学、経営情報システム、技術経営(MOT)、生産管理とロジスティクスシステムに関する研究 機能性材料・資源循環・エネルギー技術、環境の実態把握、環境保全・環境再生、衛星観測やモデリング、人間環境システムの管理・計画、人間の心理・生理的仕組みに関する研究
環境放射能学専攻 博士前期課程	環境放射能学コース	生態学、生物学、またはそれらを基礎とする放射生態学分野の研究
		地球科学、現象数理学、またはそれらを基礎とする放射能モデリング分野の研究
環境放射能学専攻 博士後期課程	環境放射能領域	放射能(線)の計測、モニタリング計画、予測評価、環境修復、放射線防護、廃炉、中間貯蔵、浄化に関する研究



食農科学研究科 Graduate School of Food and Agricultural Sciences

食と農で持続可能な社会を

食農学類の学びを継続・発展させ、福島県の農林水産業と食料・食品関連産業を発展させるための人材を養成する。被災地域における新たな経営・生産方式の導入、「ふくしま」ならではの高付加価値化の取組や環境と共生する農林水産業の推進といった福島県が抱える固有の地域課題の解決に取り組む。

本研究科は1研究科1専攻(食農科学専攻)の体制のなかに4コースを設け、学生は主指導教員が担当するコースに所属し、授業、演習を通して研究技法を学ぶとともに主指導教員と2名の副指導教員の指導を受けながら自ら研究を行い修士論文として成果をまとめる。

食品科学コース	食品科学を農場から食卓までのフードチェーンの繋がりの中に位置づけ、食材の生物学的、物理化学的な加工・保蔵技術の知識や理論に加えて、食と健康及び安全性、嗜好性などの生理学的、医学的な知識と理論を修得する。さらに先端機器分析とデータ科学による定量的化学・生物学の基礎と応用を学び、食材、加工・保蔵、生体に関わる複雑系における科学的根拠となる技術と理論を体系的に学修する。
農業生産科学コース	作物生産、食料生産、栽培資源利活用、栽培環境の諸問題を解決するための専門的で高度な知識や技術力、新規栽培品種の開発と既存品種の見直し、栽培技術の革新、病害虫の農業被害管理に関する専門的で高度な科学技術を学修する。また、研究を立案して推進する能力、データを解析し考察する能力、説得力のあるプレゼンテーション技術など、科学的・専門的で高度な専門知識と技術を学修する。
生産環境科学コース	食と農が依って立つ森林環境と農村環境を維持するため、環境調和型農林業生産、里山管理、野生鳥獣害防除、森林・農地の物質循環、農業インフラ管理、ビッグデータ・ICT・人工知能(AI)の農業への活用など、生態系の動態解明から農山村環境の管理システムまでを網羅した専門的で高度な理論及び科学技術を学修する。データサイエンスを基盤とした研究活動を行い、科学技術を社会実装するための手法を学修する。
農業経営科学コース	農業経営やフードシステム、地域・農村社会に関する高度な専門知識を学修することにより、食と農に関わる問題群を解決するための知識と人文・社会科学的な技能を修得する。また、データサイエンスとフィールドワークの方法論、及び対話・議論の場を重視し、現場課題に立脚した研究活動を推進し、これからの農林水産業や食品産業、地域・農村社会を担える人材の養成を目指す。

岩手大学大学院連合農学研究科(博士課程) United Graduate School of Agricultural Sciences, Iwate University

岩手大学大学院連合農学研究科は、岩手大学(設置大学)、弘前大学、山形大学、福島大学にて構成されます。各大学の特色を生かした教育と研究体制の強みを相互に生かした運営を行っています。食農科学研究科(修士課程)の大学院生(修士)が連合農学研究科(博士課程)へ進学し、更なる研究の展開や高度人材養成を行います。

教職実践研究科(教職大学院) Graduate School of Professional Teacher Education

地域課題や教育課題に果敢に挑むイノベーション人材としてのミドル・リーダーを養成する

教職実践研究科は、地域課題や教育課題を認識し、新たな教育の探究により、未来を創造し、確かな課題意識と豊かな想像力と着実な実践力を身につけることで課題に果敢に挑み、その解決に寄与する人材を養成することを目的とする。

大学院の進学者の教育とともに、県教育委員会、市町村教育委員会の協力のもと、現職教員研修の場としても機能し地域社会に貢献する。

ミドル・リーダー養成コース	自らの教育実践力(授業力、生徒指導力など)をもとに、学級経営から学年経営・学校経営へと学校課題を視野に入れつつ、チーム学校を下支えする重要な役割を果たす教員として学校課題を解決する機動力をもった「ミドル・リーダー」を養成
授業デザインコース	自らの教育実践力(授業力、生徒指導力など)を改善し、学級経営・教科指導の力を確固たるものにするとともに、学校課題の意識をもった、「次のミドル・リーダー」を養成 また、学部新卒学生を対象とし、年間を通じた学校経験を重ねながら、多様な現職教員と交流することを通じて、教育実践の課題を総体として理解し、学校教員としての自覚をもった「次世代のミドル・リーダー」を養成
特別支援教育コース	障害の重度化、重複化、多様化に対応でき、特別支援学校のマネジメント力または高度な実践力を身につけた特別支援学校教員を養成

学系 Researchers Department (研究組織 Research System)

新制度設計のもとに教育組織は学類として、研究組織は学系として位置付けられた。現在、8つの学系が存在し、各教員は自己の専門領域に応じていずれかの学系に所属し、研究活動に従事している。各教員は学系を基盤に日々研究交流を行っている。そして今日、大震災・原発事故後の地域社会の多様なニーズに応えることを重要課題として意識し、学系プロジェクトや多様なプロジェクトを通して、自治体の再生や支援、農林漁業や製造業の復興・再生、学校・教育支援などに関わっている。

教育学系 Education

人間の存在と社会ならびにそれらの発達、教育との関係において、多面的・多角的、統合的に理解することを目的に研究を行っている。教育の現象を論じる本学系ならではの特徴である、多様なテーマと観点のもと、諸問題に理論的かつ実践的にアプローチし、体系的な知の創造に向けた模索と挑戦を重ねている。

地域文化・言語学系 Regional Culture and Languages

日本、アジア、世界の諸地域の社会、思想、歴史、文化、文学、芸術、言語を対象とした基礎的研究・応用的研究を推進するとともに、領域を超えた研究の連携や地域との協働的活動を通して、人間や社会の諸相について様々な視点から探究する。

健康・運動・心理学系 Health, Sports Science and Psychology

健康・運動・心理学系に所属する教員は、体育、スポーツ、健康科学、心理学、医学等を専門とし、人と社会の身体的・心理的健康に寄与する研究と実践を行っている。

法・行政・社会学系 Law, Administration and Society

政策や行政の制度の実態を踏まえ、法・政治・行政学的視点で、社会的・経済的諸問題を研究している。また、社会の構造及び地域社会の問題を踏まえ、政策化・社会計画化する視点で、地域の諸課題を研究している。そして、学系領域相互の有機的関連も視野に入れた研究を進めている。

経済・経営学系 Economics and Business Administration

経済・経営学系には大別して経済学・経営学・会計学の3つの研究分野がある。各分野では、基礎理論の発展に資する研究が積み重ねられるとともに、地域社会や企業等の抱える上記分野に関連する課題の解決に向けた研究も進められている。

自然科学・情報学系 Natural Sciences and Informatics

自然科学・情報学系は、数学・物理学・化学・環境科学・情報科学分野を研究領域とする教員から構成されている。自然の真理を探究するとともに、環境保全や情報化社会などへの貢献も目指しながら研究している。

応用理工学系 Applied Science and Technology

科学技術を社会に活かす目的を持って、研究を行っている。取り扱うテーマは多岐にわたり、学問分野横断的なテーマも数多くある。共同研究など、産学連携活動が盛んなことも特徴である。

生物・農学系 Biological and Agricultural Sciences

多様な生物と地域環境をめぐる自然科学に取り組むとともに、農林水産業や食品産業を牽引する新時代の農学を展開する。放射能に関する研究や社会科学の研究とともに、福島ならではの持続可能な社会の創造に貢献する。

学術刊行物

ACADEMIC PUBLICATIONS

2025.5.1

部局等 Division	刊行物名 Name	年発行回数 Issues per year
福島大学 Fukushima University	福島大学研究年報 Annual Report of Fukushima University	1回
人間発達文化学類 Faculty of Human Development and Culture	福島大学人間発達文化学類論集 Bulletin of The Faculty of Human Development and Culture	2回
行政政策学類 Faculty of Administration and Social Sciences	行政社会論集 The Journal of Administration and Social Sciences	4回
経済経営学類 Faculty of Economics and Business Administration	商学論集 Journal of Commerce, Economics and Economic History	4回
保健管理センター Healthcare Center	福島大学保健管理センター紀要 Bulletin of the Healthcare Center	1回
地域未来デザインセンター Community Future Design Center	地域未来デザインセンター年報 Annual Report of Community Future Design Center	1回
学校臨床支援センター School Clinical Support Center	福島大学地域創造 Fukushima University Journal of Regional Affairs	2回
	学校臨床支援センター紀要 Bulletin of School Clinical Support Center	2回



学群・学類・研究科・学系
学術刊行物

